

明治十七年八月十日露艦隊と戦つた露艦隊の戦況

明治十七年八月十日午後一時、分隊午後八時二分至
 六時間五十分、間吾カ聯合艦隊の旅順口に砲二十連射
 山東高角沖に至り、海軍の露艦隊と戦つた際、第一
 同交戦中一時三十六分敵の巨砲一発本艦大橋に命中し
 為に後部右舷セルシーデッキに甲板大橋附近に飛来し、在る者
 二等半樂手右田金一外七名已死し五分防長大尉中川善右
 郎上等操縦士上村大郎外下士卒三名負傷し、即死の者
 死体収容所セル操縦台浴室に収容し負傷者中二名は下腹、
 複雑骨折し、負傷者運搬員補助に依り、徒手運搬情
 況に依り、瘡所達数あり、他三名は上腹、砲剣に依り、自安治療
 所に来り、他一名は下腹挫傷し、輕度なリ以テ之レ又、自歩

毎

軍

来テ需療スル療所ニ於テ直ニ右急所置リ施シテ後重傷
 者三名下甲板負傷者又容所ニ舞臥セリ也二名ニ施行上
 再ニ戰鬥配置ニ備シテ而シテ第一回戰鬥約三十分至テ
 然レ一町彈着巨島外ニ在テ敵ニ追行ニ絶負シ食ッ喫シ五時三
 十分兩砲撃シ閑然シ八時十分至テ戰鬥全ク止リ
 第二回戰鬥、於テ敵彈命中セシモノ數十発艦内破壊シテ亦リ
 多大ニ直接死傷者シ発生セシ敵彈尤、如シ
 一、六時十分九発ホトテキ十二ヶ十番砲楯上角ニ命中撃折
 シ為ニ中尉小川一良戦死シト士卒一名負傷ス
 二、六時三十分前艦橋九発セマホアシニ命中爆裂シ為ニ中尉
 篠瀬海二郎上等倉平六重深田大郎外下士卒四名戦死シ
 大佐艦長伊地お英彦次少佐佐々謀殖田謙吉少佐
 寛一少尉水雷長尾長尾中佐久直少尉佐補生加島次少佐

長谷倉儀外下士卒十二名負傷

三六時三分中甲板六負病重、余中令甲板ヲ貫通シテ甲板ヲ

三区前部防人隊員二等標開京野采次郎外一名戦死シ二

等機除六連板植未去外七名負傷

四六時三十分後艦橋ニ命中爆裂シ少尉五分隊士畑定安

外三名戦死シ少尉候補生高辻廣長外下士卒五名負傷

五五時五十分後部十二号砲塔ニ巨弾一発命中一砲機部

要手折セリ二等水兵平佐長吉一名戦死シ砲台長博春

王殿下上等名電室本機次外下士卒十三名負傷

六七時中板九名十番砲架、命中爆裂シ五分隊長属

少尉候補生沃本奇以下士卒八名戦死シ水雷長太佐

小山田伸之丞以下士卒十一名負傷

七、七時中板副、命中一、等名電西本原太郎四名負傷

ハ七時三十分七番ハッ子コーミンガ、一弾余中幸丸長六電長
徳吉次郎外下士一名負傷ス

九七時三十分九航六平十四番砲撃之余中二平六電白田國

次外一名負傷ス

十七時四十分九航六平十番砲撃余中二平六電西田毛以平

外七名負傷ス

甚下士幸丸中下甲板等存ラ得片甚他、破片或一弾是運放

等之危事之負傷セシ者也

戰國東カテ放艦速航中汽正部、温反百三十夜内外昇、為

二機関六一名輕反、急射病、侵サレリ

以戰鬥之際、即死セテ者中尉藤原慎二郎外廿二名負傷者艦

長大佐伊地知彦次郎外八十四名、シテ既死者、直ニ死体以

容所運搬シ負傷者ハ凡テ徒手運搬シテ此處所運

搬サレリ担架ヲ使用シルモノハ既死者ニシテ胸膈部爆裂ガ肉
 睛脱出スル者或ハ四肢挫断複雑骨折等ヲ徒手運搬シ於
 テ不便ヲ感ズル如キモノハニシテ負傷者ハ担架ヲ使用スルモノ
 ナシ負傷者ハ一時結々雲集シ到底手術台等ヲ応用スルノ暇ナリ
 治療所附近ニ運搬サレルモノハ其位置ニ於テハ応急治療ヲ加
 シハ後重傷者ニシテ戰鬥任務ニ堪ハサルモノハ収容所ニ靜臥シ兼
 輕傷任務ニ障碍ナキ者ハ治療ノ上再ハ戰鬥ニ服セシヨリ即チ負
 傷者ハ十四名中四十七名ハ再ハ戰鬥任務ニ從事ス下甲板負傷
 者ハ収容所ニ温及高クシテ百十五度ニ昇リ寒威ヲ流汗淋漓健
 者ニ至モ實ニ其苦ニ堪ハル能ハカカ如シ況ニヤ敷下ニ對シ悲奈
 ノ外ナカリシ他重傷者ニ於テハ其苦痛ヲ感スル激甚ナルヤ
 明々シ依テ戰鬥中ハ辰直ニ敷下ニ姑シ士官ハ各私室士官病室
 下士卒ハ六負病室下甲板九及第十区ニ病床ヲ設ケ茲ニ転

術セリテリ之レ示生計重セシ士官之室士官次室ノ如キハ大破ノ後
 リ其目的ヲ達スル能ハサルヲ以テナリ其間ハ廢所勿ハ中甲扱手術室
 ノ消毒裝創材料諸器械類ノ消毒手術所準備ニ着手シ手
 術台ヲテ時ニ設置シ約十時ヲ再重傷者ヲ順次治療手術ニ任
 事シ翌工日午前七時全ク地術ヲ終ヘタリ
 創傷ノ對スル所置ハ絶對的防腐性ニ依リ可及的保存的療法
 ニ從ヒ異物ノ如キ容易ニ蝕知レ得ハキモノニシテ剔出シ不得巴モノ
 外創面ノ蝕接探究ヲ避ケ卓ニ殺菌乾カシビシ以テ被覆ス
 ルノ方斜リ取レリ骨質ノ異状アルモノハフエルト剔去ラズ蝕固走キ
 負傷者運取員ノ業ヲ可及的創面ニ蝕接ス寧ロ出未得ハキ大テ
 迅速ニ傷處所ニ運搬スベク教訓セシカ果シテ其教ニ從ヒ蝕液出血
 烈シキ者ハ外裝創材料ヲ用シタル者ヲ其運搬ハ極テ迅速ナリ
 運搬法ハ凡テ徒手運搬法ニシテ運搬具ヲ使用セシ者ナシ之レ也

廣島高城納

火下ニ危険ヲ冒シ負傷者ヲシテ再ヒ受傷ガラシムル運搬負自
 身モ速カニ危険ノ位置ヲ去リ以テ比較的安安全全ニ治療所ニ速
 運搬スル目的ニ外ナラザルベシ
 負傷セシモ自カラ輕症トシ右急治療ヲ加ハス依然然戰鬥ニ從事シ
 者幸ハ長境告テ外下士卒ニ衣ミシテ十日在診ムコト受ケテ

九、兵器破損及應急修理法

(1) 第一冊戰鬥中依砲塔右砲身於テ十六発自発砲際火
 管破裂危斯噴出、為テ発火装置火管孔及板打針溶
 解シ発火は装置ヲ高脱スルコト能ハズウエムトシテ「ル」等ヲ
 用ヒ発火装置導杆ヲ緩方ニ引抜キ銃口以テ右方ヲ打抜
 キ發火装置ヲ高脱ス全時尾栓在頭火門ヲ換スルニ
 形氣坐、如ク銃解シテ使用シ不堪ヲ認シ急速之シガ文



換ッナセリ。以時本砲自ニ等水六百板法助の寂チ砲身破壊、
 時自傷送院セラレシ。た者平幸三、四名ヲ以テ運搬スヤキ
 重量アル尾栓頭ッ草身後部十二尹彈糸通路ヲ擔ヒ来
 リシ。為シ速速交換ヲイシ。寂後五十分間ニシテ因ビ発射ス
 支ナカラシシ。リ但シ右砲故障ノ間ハ虫モ尤砲ハ引続キ迅
 速ニ発砲シ健法シ。一期戦陣中三十発ノ彈丸ヲ発射シ二砲
 身ニ於ケルト導キ効カッ失セザラシシ。リ。砲負ノ奮力由ル所也
 (ロ) 今後橋樑揚弾機敵弾後橋ニ命中、為リ破壊直
 ナニオイテブレヲ用ヒテ右急処理ヲ施シ揚弾ニ左支ナカラシ
 シ
 (ハ) 第二期交戦中敵弾(口全不詳)十四番十二所砲橋(中
 心軸砲架)ニ命中爆発シ其ノ半ヲ切斷シ砲身ヲ甲板ニ
 墜落セシ。全ク廢物ニ成セシ。(砲身、砲架ト甲板ト砲口ト

廣島高城納

砲底ッ掛ケ斜ッ降墜シアリタリ今厚又本砲背左ハアリ
準備弾薬約二十発ッ爆発セリ補生一名本砲負四名
及運弾負一名即此セリ隣砲負數名ヲ負傷セリ尚ホ上
甲板一吋甲板ヲ彫裂セシテ直下十番六号砲負三名ヲ負
傷セリタリ但シ六号砲ハ何等ノ損害ナシ
二令敵弾十六番十二吋砲楯左南ノ命中シ楯蓋粉砕
シ肩着及喫準器ッ破壊シ砲架ノ旋回ヲ不能ナラシメタリ
但シ砲身ハ何等ノ損害ナカリシテ戦術後直チニ修理ッ
加ハ発砲支障ナカラシメタリ
亦令敵弾六号十四番砲門下部ノ甲壁(六号)ノ命中傷
発シ照準望遠鏡ヲ破壊シ一番砲手ヲ負傷セシム爆発
ノ為砲門下縁及左側甲壁ノ内方ニ屈曲セシメ為ニ此後
約二十夜以上旋回カレ能ハサリシモ艦首目標ヲ喫準シ戦

海中発砲の連続より砲身の散弾破片より数ヶ所、凹傷
ヲ生セリ他、損害ナシ

(ハ) 散弾(口歪木詳) 復檣楼七番三呎砲、命中し砲身
及砲筒ヲ碎断し砲筒、海中に砲身、復半甲板上、墜

底
ヤリ

(ト) 散弾(口歪大者) 復砲塔右砲身、命中し砲眼、
外方に於テ鑰環、部より切断し前身在海中に墜落
今時砲身破裂ノ現象アリ砲塔、同時右舷側、転回
約右舷止横上靜止シテ動カズ塔内、爆発ノ為ニ天蓋格
子、過半墜落し尤砲、鞍、両側ヲ閉塞シテ砲、出入付
ヲ不純ナラシムルカ装填盤ヲ破損し又上部揚弾機、昇
降用導管、鉄ヲ曲折シテ人手、昇降器、使用シ不能ナラシム
カクルニ砲、専任修理、格士、友及全砲、負傷、負傷

廣島高城納

ルヲ以テ戰鬥中本砲、應急修理ヲ加ふるヲ不能本砲彈藥ヲ
 前部ニ運搬シテ前砲塔ノ彈藥ヲ補給スルヲ不可止望シテ
 戰鬥終結後夜ヲ徹シテ砲塔内ヲ整理シ防火鑿揚彈番
 旋回輪梁準備等、應急修理ヲ施シ翌日正午迄ニ全
 九砲、発射準備ヲ完成シ試発射止砲発射機支障
 ナカラシメテ九砲身、敵彈破片ノ内前身下面、多数ノ凶傷
 シ生セシメ、其他砲鞍等、ニ大状ナシ

砲身切斷當時目撃者ノ口述

二号信管ノ港洋甚左砲門(後部タターデッキニ在リシモノ)
 自分が目撃セシ敵彈ハ二十子トモ思フ大彈ニシテ彈形モ
 良ク見タリ倉中セシ場所ハ右砲ノ九砲ノ中間ニシテ右砲
 身ノ下ニ申リシト思フヤ否ヤ砲身ノ中央ヲ切斷シ前身
 原形マ、海中ニ飛ビサルヲ見タリ今時砲塔ハ大速

漢 國

カ、テ右舷ニ急転シ転倒セサルヤ、恐レシヲ抱キツル程ナリ

自ラ倒レテカウ司命塔右後方ニ行キレシニ、敵下ノ半ハ御氣

絶、体ニテ「ロ」ニ寄り掛リ、危レシヲ認シ、背負ヒ棄ラセ下

甲板、御連レ申上ケテ

砲塔長官本上等台電ノ口述

當時後塔、敵屬ノ導艦ヲ射撃シ、ワ、アリ、砲準備シ

整ヘ止、発射セントナル瞬間、敵艦ヲ激シ、集中サレ

タル一弾砲塔前部ニ命中ナルト思フヤ、否ヤ自分モ見

エバ知ラズ、引金ツリ、オ、リト思フト、其ト大激動ヲ感ジ

照準台ヲ蹴テ、飛バサレタリ

砲塔次長一等台電、澤井三郎ノ口述

當時、砲台長、命ニ依リ、独立右方ヲ行ヒ、自ラ砲ノ

発射ヲ遂行シ、危シク、次敵艦ヲ射撃スル

廣島海軍

九後砲塔前方最近ノ処ニ落トスルモノ甚ク多ク大ニ其
余ヲ氣遣ヒ去リ

自分ハ九砲ヲ発射準備シテエツテサレナイ子ニ向ヒ突
進シテ將サニ突砲セントル利那突然爆音ヲ聞キ自
分ハ突撃台ニ後方ニ跳キ飛ハサレタリ而シテ敵砲ヲ
中セイヤ否ヤ知ラズ一時視感ヲ失ヘリ

砲身破壊状況

一 砲身切断ノ時砲ノ旋回及九能止横前約十五度
計リノ位置ニ在リ

一 砲身ノ鎗環ノ前方ヲ切断シ内筒切断部ノ最モ
短キ者ヲ約四寸約十五寸処ニ彈全ク等シキ環形ノ痕
跡ヲ留ム

一 内筒ノ破裂シタル最大内全 五一冊

一、外套、膨裂シテ最大内径一米。五

壞裂部ハ芦野放投ニシテ採影サレタリ

一、塔内ニ駐込機ノ前部ニ多数ノ砲身砲片ヲ残留セ

ルニ、彈片ラシキモノハ甚少数ニシテ、発見ナ

シ、他内部ニ残リト彈片モ砲身破片ヲモ認ム

十、六鬼及重丸ヲ奪取ノ消耗（付録カ一表）

十一、艦内各員ノ功績

艦長自ラ自己ノ配置ニ就キ極テ靜肅ニシテ純リ其職務ヲ終シ、毫

モ一平時演習ノ時ト異ナリコトナリ之レカガソ、敵ノ動作

ヲ於テ非常ノ因果ヲ察シ、又、敵ノ動向ニ及ビテ敵艦兩

飛シ、末リ倭艦壁ヲ破リ死傷相隨テ生セシモ、毫モ痕

廣島海軍

十三、戦術中、実験より得た改良の要否ハキレ

一砲台長ノ保護ハ絶対的ニ要ス

一司令部ハ少ナクモ現今ノ二倍大ナル者ト司令長官以下概

要ノ幹部ヲ收容保護セザルハカラス

一距離測定器ハ戦々モ現今ノ外ニ或レ以上ノ餘備ヲ要スルハカラス

一上檣楼ニ彈着観測手ヲ置キ砲火ノ指揮者ト電法通

信ヲ元備タルコト最モ必要ナリ

一司令部塔ハ各砲台ト通信ハ無論一層ノ改良ヲ要ス

一十二所砲準備彈架、被甲トシテ各砲側ニ備フル

必要アリ

一特に高所ニ輕砲ヲ備スガハ檣楼ヲ設クルノ必要ヲ

認ム

一橋ノ多キハ絶対ノ危険ナリ

一砲塔照準座、喫込調整手ヲ置ク、ハ非常ニ有

益ナラシ認メテ、現在、如キ構造ノ者、社、砲塔

長若ク、砲塔次長ノ外更ニ、一、調整手ヲ置ク、甚

狭隘ナリ、新艦ハ、内、準備ヲ致クル、最モ必要ニ認

一、調整手モ亦絶対的ニ必要ナリ、毆ナクも砲

手一、充テ、増加スル、一、急務ナリ

一本海戦後第三地矣、於テ山城丸及揚云ヲ補充セシ

一、調整手モ亦、又々、各砲何レモ自在ニ嵌合セサルモ

母、多敷ナルヲ見セシ、一、調整手モ、試験ヲ行ヒ、各

毎、適合スル、葉、挿、入、ス、ル、止、ム、得、サ、ル、ニ、至、リ

如、新、作、業、ハ、緋、葉、補、給、後、急、速、ノ、戦、闘、シ、角、ト、セ、サ、ル

可、キ、如、キ、場、合、ハ、於、テ、急、険、之、ヲ、大、ナル、ト、シ、使、用、者

廣島海軍

ヲシテ如無顧慮ヲ有セシムルト皆其ナラシムルノ用意ハ尚ホ
周到ナランコトヲ望ム

一砲塔大蓋、格子ハ高脱的ノモノトナシアルヲ以テ今更ノ如
ク激動ノ為落下シテ損破セザル迄砲塔无砲使用ヲモ
戦闘中不能ナラシマリ之レヲ固着装置トナス、利害大
ニ又兎ヲ要ス

一交戦中揚弾機、故障ハ初期モ如ク頻々トシテ起リ而モ
敵弾爆発、為火烟揚弾筒ニ注リテ噴下シ得果運送
ヲ充備シテ危険謂フ可カラス式ハ十番六手砲、如キハ恰モ
揚弾筒、上部一吋甲板ヲ破壊サレムルヲ以テ海水彈薬達
路ニ溢下シ揚弾筒防水蓋ヲ閉鎖スルノ止ムヲ得サレニ至ラ
シシマリ又十二吋砲揚弾筒ニシテボルトヲキレ下方ニ存
スル者ハゴロミングハ低キガ為ソ甲板ニ於流ルル海水

（防火ニ使用シタル）ヲ流下シテ止マセカカ如キ等シテ弾薬
運路ノ働作ヲ防表セシテ不勘要らんニ各砲揚弾
筒ハ上甲板以上ニ於テ尚ホ一層ノ防備的波覆ヲ施
シ砲郭内ニ於テモ弾薬取入口ニ於テ働作ト妨セ
程及ノ被覆ヲ設クルハ忽勿論ナリ所砲ノ如キハ全然取
入口ヲ防表セザルベカラズ之ニカ為シテ千歳等置ニ於ケル
揚弾筒製式ハ大ニ改良ノ換ハルニ足ルヤシ

右報告候也

明治三十七年八月二十日

三笠艦長伊地知清次郎

第一艦隊司令官東郷平八郎 敬

廣島高等海軍

十、軍艦三隻六隻消費表

砲種
榴霰彈
高角砲
鋼索砲
高角砲
鋼索砲
合計

四一式十二号安砲 七六九六 一七二 射用ノ陰亮付

二号伊集院信友 七六九六 一七三 内一個裝填ノ丸者付枚数

二号伊集院信友 七六九六 一七二 内一個裝填ノ丸者付枚数

安式五柵速射砲 四九五 一〇九

安式五柵速射砲 四九五 一〇九

二号伊集院信友 四〇四 一八九 内六個装填ノ丸者付枚数

二号伊集院信友 四〇四 一八九

電氣火着 四〇四 一七五

電氣火着 四〇四 一七五

安式十二号速射砲 六三四 六三四 電氣破損付撃発ノ用

敵橋楼

前部ホートテッキ 中央

後部ホートテッキ 左舷

ホートテッキ 及 又テッキ 甲板及 手摺

ホートテッキ 手摺及 不クシヨシ

後部无磁磁格屏障用柳

今所手摺及 不クシヨシ

今甲板

今「オーミング」スシヨシ

今海図室儲子戸

大橋楼

「ソニコスト」上甲板ニ於テ

後部ホートテッキ

今ニケ所ノ孔ヲ生ズ

今其個所ノ孔ヲ生ズ

敵岸炸裂為テ三所磁磁障障凡テホートル破損

彈片為ソ破損

今破損十ヶ所ヲ生ズ

彈片ノ為ソ其個

今上破損十二ヶ所ヲ生ズ

砲彈長一五呎六寸破損

彈片ノ為ソ折損其本

今上二枚破損

砲彈ノ孔至四寸以下二個

十二手砲彈為磁磁障障破損孔ヲ生ズ

十二手砲彈為孔至八寸以下二ヶ所破損

後部 ヤンキーデッキの壁 及手摺	弾片、為七ヶ所、破損シ生ズ
上板 右舷、真 厠外板及中仕切	十三ヶ所、破損 彈片、為七ヶ所、破損シ生ズ
小便 鬼及排水 管	彈片、為破損
中板 右舷、幸 枕、要具、庫扉	拾二ヶ所、破損、為七ヶ所、一ヶ所、生ズ、全部破損
燈具 室、障壁 及棚	全上在凡一未定、生ズ、全部破損
潜水 器、要具、庫内、棚、障壁、及口	拾五ヶ所、破損、為七ヶ所、以下二ヶ所、生ズ、全部破損
中板 右舷、負 厨、障壁、及窓	全上 破損、為五ヶ所、以下二ヶ所、生ズ
中央 両舷、門 扉、用、硝子	彈片、為二ヶ所、破損、生ズ
外板 十二ヶ所、十三ヶ所、砲、外板	砲、彈、為五ヶ所、破損、生ズ
六番 ハッチ、コーミング	全上 破損
後部 アビシクル、コーミング	彈孔、無数、生ズ
上板 カセ、ハッチ、コーミング	砲、彈、為十五ヶ所、破損、生ズ
九 銃、水、筒、格、納、用、の、子、及、ヒ、セ	全上 破損、為五ヶ所、一ヶ所、破損

廣島高城納

上甲板区科要具庫障壁及口

檢子砲彈為五ヶ所破損ヲ生ズ大命分

上甲板青廁通路障壁及扉

砲彈ノ為孔至六百ミ以下ハケ所破損

令側内小便鬼

令上破損三個ヲ生ズ

令側内取付海水管

令上破損五個ヲ生ズ

後部スプリングバルクヘッド左扉

令上破損

令スプリングバルクヘッド

砲彈ノ為孔至六百ミ以下無數

令上甲板砲塔ノ左側

令孔至キートン破損

令左舷側後方

令長キートン以下二個所破損

令左舷補助機室逃棄筒

令孔ヲ生ズ

令無線電信室障壁

令孔至六百ミヲ生ズ

令將官豫備室

令孔ヲ生ズ

令フイヤンシ吐水口

彈片、多クモ、ハレ番三個破損

令海水及汽水排出管

令ハケ所破損

「ラン子」及「ビシネース」	弾片、為無殺、孔ヲ生ス
第三「カッター」	今中央部甚々敷粉粹、使用場不
第一通板	今無殺、孔ヲ生ス
水雷、引揚用、引ビツト	砲彈、為本折損
右舷柳及手摺後、今量	今、破損
台員病室外板及甲板	十二号砲彈、為七〇、孔、同シ生ガ
今所内、寢室及食卓	今、弾片、為破損
今入口敷板及金物	同上
中甲板外三、无、无、无	今砲彈、為全一五、〇、〇、孔、同シ生ガ
今、空、格、四、番、地、一、〇、一、〇、内、厨、用、排、出、板	弾片、為孔、同シ生ガ
今士官食鬼室	障壁十二号砲彈、為約二米、破損、大部破損
今、係、小、排、出、装、土、官、食、鬼、室、前	弾片、為、凡、〇、長、二、米、定、破、損
今、所、内、无、舷、甲、板	十二号砲彈、為全、米、定、破、損

廣島高城網

个无袖外板
 个所内板
 个暖爐及烟筒
 个食卓及腰櫃
 冬澤室及寢室
 士官室下之澤長寢室博壁
 个室入口扉
 幕僚事務室及之扉
 冬謀事務室用扉
 冬澤長寢室及外板
 个室入口板
 个寢臺及机戸棚
 中甲板六子救難管
 个第七逃索筒

个上全四五〇〇〇孔皆同ッ生ハ
 个上の破損
 弹片、为孔ッ生ハ
 个上全部破損
 全部破損
 十二子砲弾、为甚敷破損
 弹片、为破損
 个小破損或ヶ所
 个上 其同ッ所
 十二子砲弾、为全一、二〇〇〇孔ッ生ハ
 弹片、为孔ッ生ハ 破損
 个上破損
 个上 孔二〇〇〇ッ生ハ
 个上 孔ッ生ハ

个 左舷側外板準線下 <small>(幸甲鉸穿貫)</small>	个 第三区通風管	个 室内、欄壁及入口扉	个 幸他長室 个 幸他長室外板	个 对外舷外板水取入用板	个 室内、寢台及机全部	个 室内、障壁全部	下甲板幸水密室外板	幸水密長室	暖爐用煙突下部	上甲板田硝子	个 幸六非柔筒	个 艦長寢室前部障
个 上又全四五〇〇 孔ニ個シ生ズ	个 上長ヲ凡三米白破損	个 上破損	个 上破損	个 上二個破損	个 上粉砕	个 障片、为破損	十二平砲彈为全一四〇〇 孔ニ生ズ	全部破損	个 上破損夫、個	个 上破損貳枚	个 上	彈片、为孔ニ個シ生ズ

廣島高城館

今今所、水止障壁

今上破損ニテ所

今今所、准士官寢室前甲板

今弾片、為少シク膨脹

今士官次寢室

八分通り破損

今士官次室、外板

今砲弾、為全一六〇〇、孔シ生ズ

今今室、入口鉄板

今弾片、為全四〇〇、孔無致シ生ズ

今今室内、食卓及腰掛

今上破損

今士官次室内、甲板（米庫、天井）

十二子弾片、為少シク破損、孔シ生ズ

今副長寢室内、前部障壁

今上全二〇〇、孔シ生ズ

今五寸、水筒

今上少シク破損

六子、拾四番砲、上蓋、庫内（六子甲板、四回、六子甲板）

十二子砲弾、為全四〇〇、孔シ生ズ

後部、絞蓋

弾片、為破損

甲板、後部、（六子甲板、四回、六子甲板）格納箱

弾片、為破損

付属具ニ部

前部巨鳥測定器用のニシ	弾片、為破損
个「セマホ」信年一鬼	敵弾、为三个所損
信年格内出	敵弾、为破損
上甲板揚弾筒及蓋	六上
又眼鏡	將校信年部負戦死係百傷係亡失系破損
望遠鏡	信年部負戦死亦百傷、除破損
前部艦橋、艦長寢室、通信室	弾片、为破損
大橋内、附看丸信法管	个上
松或十八番砲要具格内所	个上
將官の室外板左舷側	个上
前部左舷「オ」シキレシヨシヨシ受	弾片、为二个所破損
探測機長寢室汚水排出装置	个上
「ネ」ト「ウ」シ「ク」及「コ」	弾片、为五个所破損

廣島高城館

六千五百發砲塔及扉
 後部左舷防弾用砲
 丸 砲丸 1 ヲ 1 ヲ
 士官公室 1 ヲ 1 ヲ
 下甲板主計官寢室 砲子
 ハ子 用金物
 オールシグス タンシヨシ
 ソンマス ト 用 バンド
 東後部 砲塔 中 火 藥 庫 内 砲
 塔 昇 降 機 用 砲 丸
 燈 具 室 南 部 司 塔 運 送 機 庫 内
 前 部 司 塔 内 砲 丸
 後 部 司 塔 内 砲 丸

於 二 手 砲 塔 為 破 損
 砲 片 為 赤 色 破 損
 全 上
 全 上 全 部 破 損
 全 上 吉 波 破 損
 砲 片 為 破 損
 全 上
 砲 彈 為 破 損
 全 上 吉 波 破 損
 砲 片 為 二 個 破 損
 全 上 二 個 所 破 損
 全 上 二 本 破 損
 司 塔 運 送 機 庫 為 破 損

明治三十七年八月十日戰鬥中火高料園破壊箇所

通信機之部

前部司令塔より後部左六平砲台に至る

今所より後司令塔に至る

前部艦橋より艦長室及艦長寢室に至る

今所より取海長室

今所より士官室

今所より揚子船機

右司令塔室内に破壊

後部艦橋より大艦長事務室に至る

今所より艦長寢室及艦長室に至る

今所より先任衛兵伍長詰所に至る

右電信室に破壊

後部中甲板、番及給仕等電地破壞、其造達、電線各的切斷破壞、
 高聲電流機電路、守燈室及電信室、同悉皆切斷、
 巨離通報機之部
 後部砲塔内受信機破壞
 同司令塔内受信機硝子破壞
 十四番砲受信機硝子破壞
 探海燈之部
 前部橋右舷接結並破壞
 前部管制機破壞
 後部艦橋左舷電路及接結並破壞
 右舷電路切斷
 後部橋樓、電路及管制機電路先、平面硝子破壞、切斷、
 右舷艦橋用行設抵抗切斷、今用口止、轉覆

上甲板装薬注破壊

百五十乘壓マテ計り得ル壓力計一個敵弾為海中に飛散
右甲板右舷後部ハルノ下ノ後方備付タル物

無線電信之部

五十珊感導線

閉閉器

碍子

直線

合用ワイヤ

合用ワイヤ

要具筐

内

新式

壹個

拾個

共式

共本

共所

要具共

要具共

軍艦三笠死傷者人名表

戦死

置

官職

姓名

記事

前艦橋	前艦橋	前艦橋	前艦橋	前艦橋	前艦橋	前艦橋	前艦橋	前艦橋	前艦橋
少尉	少尉	少尉	少尉	少尉	少尉	少尉	少尉	少尉	少尉
栗瀬慎三郎	栗瀬慎三郎	栗瀬慎三郎	栗瀬慎三郎	栗瀬慎三郎	栗瀬慎三郎	栗瀬慎三郎	栗瀬慎三郎	栗瀬慎三郎	栗瀬慎三郎

上甲坂后部	上甲坂后部	上甲坂后部	上甲坂后部	上甲坂后部	上甲坂后部	上甲坂后部	上甲坂后部	上甲坂后部	上甲坂后部
若運旅	若運旅	若運旅	若運旅	若運旅	若運旅	若運旅	若運旅	若運旅	若運旅
一等水兵	一等水兵	一等水兵	一等水兵	一等水兵	一等水兵	一等水兵	一等水兵	一等水兵	一等水兵

日比野秀八	天白高起	何部文吉	徳永良六郎	進藤中太郎	早川貞子	服部酒造六郎	田村嘉一郎	佐木源次郎	牧原庄	黒坂鐵次郎	鈴木能次郎	若井甚三郎
-------	------	------	-------	-------	------	--------	-------	-------	-----	-------	-------	-------

31

大橋

水島 大佐

小山田 仲之丞

大橋 忠重 置 復 不 能
二 時 初 行 於 此 處 之 所 也
於 此 處 置 復 不 能 復 不 能

前部 艦橋

水島 大佐

伊地 玄 彦 大 守

重傷

下甲 板 前部

三 等 機 關 兵

安 藤 宗 右 衛 門 尉

四 十 番 砲

二 等 水 兵

中 村 伊 吉

士 十 五 番 砲

三 等 水 兵

水 野 宗 次 郎

下 甲 板 前部

二 等 機 關 兵

林 小 三 郎

下 甲 板 前部

二 等 機 關 兵

坂 田 宗 一

前部 艦橋

二 等 機 關 兵

深 沢 半 次

前部 艦橋

二 等 機 關 兵

西 村 甚 三 郎

前部 艦橋

二 等 機 關 兵

元 木 忠 三 郎

前部 艦橋

二 等 機 關 兵

西 村 甚 三 郎

後部砲塔 前部艦橋 大 前部艦橋 後部砲塔 前部艦橋 後部砲塔 前部艦橋 後部砲塔

一等兵曹 二等兵曹 一等兵曹 二等兵曹 一等兵曹 二等兵曹 一等兵曹 二等兵曹

博恭王 殖田謙吉 小倉寛一郎 市川良太郎 中沢久直 高辻廣長 宮本信次 上村在太郎 山本宙一 大町原義之助 有木岩次郎 畠山玉次郎 長谷川重郎

右名所並後部砲塔並復多不能
 右名所並後部砲塔並復多不能
 右名所並後部砲塔並復多不能

10

子為砲	子為砲	十三事高砲	坂部砲塔	前部艦橋	士所大當砲	士所大當砲	六吋十番砲	十二吋十六番砲	士所大當砲	前部砲	前艦橋
-----	-----	-------	------	------	-------	-------	-------	---------	-------	-----	-----

"	"	"	二等水兵	一等信琴兵	"	"	一等水兵	三等兵部	二等機關部	"	"
---	---	---	------	-------	---	---	------	------	-------	---	---

中島伊作	野入房内	伊藤忠次	赤野是次	信田宗茂	三浦忠	伊藤宗太郎	牧野八郎	井上幸三郎	三上龜市	松植末吉	山口純	三谷金五郎
------	------	------	------	------	-----	-------	------	-------	------	------	-----	-------

"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

前奇繼橋	車板指揮	輕	車板奇傷者	下甲板前奇	十三歩砲	十歩砲	十一歩砲	十二歩砲	前奇繼橋	瓜火砲	車板前部	
少尉佐補生	六連長	傷	四等機關兵	三	三	三	三	三	二等傳書兵	二等機關兵	二等機關兵	
長谷川其	境吉次郎		植波宗儀	山本良平	小泉 愨	遠坂松次郎	舟見其太郎	小山弥助	高橋猪太郎	石森彦五郎	内野中太郎	行山直佐
	石倉所置											石倉所置

高野 勘兵衛 三 等水兵	高野 勘前 三 等水兵	高野 勘前 三 等水兵	高野 勘前 三 等水兵	高野 勘前 三 等水兵	高野 勘前 三 等水兵	高野 勘前 三 等水兵	高野 勘前 三 等水兵	高野 勘前 三 等水兵	高野 勘前 三 等水兵	高野 勘前 三 等水兵	高野 勘前 三 等水兵	高野 勘前 三 等水兵	高野 勘前 三 等水兵	高野 勘前 三 等水兵	高野 勘前 三 等水兵	高野 勘前 三 等水兵	高野 勘前 三 等水兵	高野 勘前 三 等水兵	高野 勘前 三 等水兵	高野 勘前 三 等水兵
-----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------

村上 忠兵衛	白坂 忠助	西川 秋松	怡田 十郎	小沢 政市	中川 十代	加藤 助	今西 文五郎	吉水 留吉	葛城 長次郎	島崎 光三郎	関矢 龍次郎	北岩 信太郎
志名所 善辰 新門 砲生	志名所 善辰 新門 砲生	志名所 善辰 新門 砲生	志名所 善辰 新門 砲生	志名所 善辰 新門 砲生	志名所 善辰 新門 砲生	志名所 善辰 新門 砲生	志名所 善辰 新門 砲生	志名所 善辰 新門 砲生	志名所 善辰 新門 砲生	志名所 善辰 新門 砲生	志名所 善辰 新門 砲生	志名所 善辰 新門 砲生

平尚砲
丸尚砲

西田亀次郎
有林末次郎

十日戦闘、於ケル死傷者、為ニ生シルル欠員補充概況

欠員補充概況

戦死
負傷
計

上等機関六曹	上等六曹	少尉候補生	少尉	中尉	大尉	少佐
--------	------	-------	----	----	----	----

一	一	二	二	二	一	二
一	一	二	二	二	一	二

大尉一名、同日、敵島ヲ兼務シ命セシ十二日、兼務但兼務時令

中尉一名、同日、兼務シ命セシ十二日、兼務但兼務時令

少尉候補生朝日一名、敵島ヲ一、同日、兼務

下士 卒 二七 三三 五九
 備 人 一 一 一

四倍年六三の朝日の上敷等々各在り上四の臨
 町来直し下士等果た三三の早九の神元其他の海軍
 鎮守村の板橋の法承り

八月十日旅順沖海戦中補索及び防火の状況

第一回戦中午後三時十分右舷止揚より敵十二号砲弾がマシマス
 上甲板後部を貫きマシマス中間倉中爆発しマシマス上甲板後部周
 圍四角三破壊せらるマシマス艀落必しマシマス付直す補索手及中
 甲板乃天隊(掃雷六及木二十名)後部下甲板より三時半網俵網
 ワイヤ上甲板持来しシ艦長余よりワイヤを以テマシマスカ
 ンニングガールに締着たる下決ス依テ鋼ワイヤー運搬シテ了り續テ
 前泊人自更ニ後橋接砲員三名の約十五名ヲ指揮シ防火隊木
 ヲシシテマシマス上甲板にエルトデッキに同隊のウエッジ一打込シ悉ク
 後前記三時半網俵網ワイヤーにカニングガールを廻レテフテイル

三以テ緊急長シ拾数回、及び御着戦中マスト維持、安全ヲ認
 メウリ其後マスト、損所上部下縁ト甲板間ニ舷梯用金物ヲ鑢柱
 立周圍、様周部ヲ全約四十密長ハ米度、鑢四本ヲ借来リケラス
 テバ、拾二本ヲ者ニ三吋、銅線銅ヲ以テ拾回乃至八回宛上中下三
 ケ所御着セリ是レニ要セシ時間約二時三十分間ナリ第二回戦手中
 約五時前十分頃迄止核ヲ来ル敵艦ヲ為シソントワカ「マスト」
 ギン「前方」分左右舷共、切斷セラシ直ニ四時「オサ」ニ條大
 カ「二」艇台員四名ヲ指揮シ「トワカ」登リ危急修理ハ是レニ要
 ナル時間約十五分間ナリ
 其後約五時十分頃六時頃ナリ「マンガ」用「ワダ」切斷セラシ
 直ニ危急修理ハ是レニ要スル時間約十分間ナリ
 上甲板火災
 第四回戦手、條約二時限上甲板「シマ」左舷側火災起リ分六

号「フアマソン」ホカ使用三分同ニシテ鎮火セシム
 沖三四銃子、條約五時十分後上甲板九銃揚艇標付迄、火災
 起テ五号「フアマソン」ホカ使用セシム火出テス因テ十二時十一番十三
 番砲備付金桶注水使用鎮火セシム此時間約五分間ナリ

赤部防大隊所水作業、概況報告

第二回新開船午飯時五分頃六負病室九銃中央外板ハ十二時
 敵弾命中し中甲板及送风管ヲ貫キ右舷着火高長寢室、爆発
 非常大音響、黒煙ヲ発シ中甲板前部所火隊ハ音響ヲ聞キ直ニ
 駛セ行キシ本艦、発砲激動、為テ電氣消滅シ暗黒ニシテ辨スル
 能ク依テ迅速、燈火ヲ失ヒ「フアマソン」ホカヲ守キ乃火ニ任事シテ鎮
 火セシム次テ赤部標索部所火隊ハ三名ハ三名ノ生存余リ死傷
 ハ合シテ一團ナリ幸火高長寢室ノ障壁及ビ外板ニリ「フアマソン」ホカヲ

生じたる敵弾孔を激浪為海水非幸に浸入同時又洞庫内板所
 最も大なる者モ被害ノ孔至大なる到底間ニ不合付幸に其付
 近ニ散乱ノ木板ヲ先ツ孔ニ當テオ二枚敷付毛布凡ソ二三枚ノ間
 隙ニ填充孔縁ノ凸所ト平ニナサシ分三厚ハ公長凡ソ六七尺ノ板ニ
 一枚ニテ前水窓ハ下ニ板ノ適者ニ切り板ニ押テ者ヲカケケ
 スラシバ一五本堅ク七者ヲ用意ノ楔ヲ以テ締シ何ヶ幸ラシテ浸水シ
 防キ航海中激浪ノ堪、為支無キ程及、至ラシム是レト同時洞
 庫漏水ノ所ハ毛布ヲ當テケケアスラシバ一丁迫漏水ヲ防キ慮急作
 業云々於テ終レリ
 次、省復長寝室又海水浸入シテ通路溢シ先アリ寝台ヲ取
 外見ハ舷側ノリハット頭部破損カニアリ又甲板ノホールト板ケ
 或地ミツルヲ海水盛ニ噴出タルヲ見ル之レ敵弾水準線下

命中シテ左舷前部海水走ッ破壊ニ至ラシムルモノナリ依テ海水衝
トシテ先ツ木柱或ハ厚毛布カクレシ塗抹シタルヲ以テ侵入スル右
部ニシテ海水侵入ノ途ニシテ止マシム

復部砲火隊ノ砲水作業ノ状況

第二回戦闘中士官次室左舷側外板ニ十二吋放弾命中爆發シ火炎ッ
起シ直ニ中下甲板砲火砲ヲ被害所ニ行ホクズシテ導キテアヤシク集
之砲ヲ迅速ニ鎮火シシモ火煙多ク充満シテガ駆除シテ努力シテ折衝波浪外舷
彈孔ヲ侵入セシ認メ依テ豫メ用意ノ彈孔塞栓最大者ヲ直ニ塞栓シテ
出シ内部ノ締付シモ高水板鏡葉凸所ノ海水浸入不止依テハ三
枚ハ毛布板ヲ押シテ密閉セシ是レ厚サ一寸木板者ヲ附シハコト用意
ノケブスリハ二本及長ク二箇中尺厚サ三寸木板ヲ適者ノ所ニ挿以テ衝次
ノ迫リテ既ニ波浪ニ為テ支ナキ程反ニ至ラシメシ

釣床肩槽穿孔調査表

前部襪橋之部

釣床内ニ止マリシモノ

一 径 一吋半 深ク五吋ノモノ 一個

一 横 一吋 縦 一吋半ノモノ 一個 (毛布八枚貫通)

一 径 九分 四吋 破孔 無数内 一個半貫通

一 横 二吋半 縦 三吋半ノモノ 一個

一 径 六吋 破孔 一個半貫通

一 径 一吋半ノモノ 一個

全ク貫通スモノ

一 径 六吋ノモノ 一個

一 径 四吋ノモノ 四個 斜貫

一 径 二吋及三吋ノモノ 凡テ十個

一 大孔五個 乱射貫通

一 径四吋、毛、四個

一 径三吋、毛、三個 斜貫

一 径二吋半、毛、一個

一 径六吋、毛、二個 斜貫

一 径三吋、毛、一個 外面破折

後禮橋之部

釣床内ニ止マリシモノ

一 径一吋深サ三吋、毛、一個

一 横三吋 縦六吋、毛、一個 斜切

一 径四吋、毛、一個 べアト 毛布一枚 貫通

一 径三寸ノモノ一個ケンパスシ破ル
 一 径一寸半深サ六寸ノモノ一個
 一 大小無数ノ碎片アリ
 一 径二寸ノモノ二個
 一 径一寸半ノモノ一個
 一 大孔十一個ケンパスニアリ
 一 径九寸ノモノ一個貫通
 一 径三寸ノモノ一個貫通
 一 径八寸ノモノ一個斜サ
 一 径二寸ノモノ斜貫
 一 径二寸外面斜貫
 一 径三寸ノモノ貫通

全リ貫通セズ

一 徑五吋、毛、貫通
 一 徑四吋、毛、一個貫通
 一 大孔十四個、釣床、燒燬
 一 徑三吋、毛、一個貫通
 一 徑十吋、斜、通
 一 徑六吋、毛、三個貫通
 一 徑二吋、毛、四個貫通
 一 徑三吋、毛、二個斜切
 一 徑一吋、毛、一個
 一 大小無數、穿孔
 一 大小無數、燒燬
 一 徑四吋、毛、一個斜貫
 一 徑一吋半、毛、一個貫通
 四吋、毛、二個射貫

- 一 徑四吋、毛、三吋、毛、一吋、毛、各一個射貫
- 一 徑三吋、毛、一個貫通
- 一 徑六吋、毛、外面斜通
- 一 徑三吋、毛、一個貫通
- 一 釣床板
- 一 徑三吋、毛、一個外面破折小孔、二個半貫通
- 一 徑一吋半、三吋半、毛、各一個貫通
- 一 徑五吋、毛、一個貫通
- 一 徑六吋、毛、一個貫通
- 一 徑四吋、毛、二個貫通
- 一 徑六吋、毛、二個貫通

揚艇標之部

金ノ貫通セナリレモノ

一径五吋深六吋半ハ貫通

一径五吋六吋モ十五六ヶ所内十個貫通

一径三吋モ二個釣床半ハ貫通

一大小魚数ノ碎片無数

一径三吋外面碎破

一径四吋モ一個所小孔無数

一径六吋モ半ハ貫通

一径一吋二吋モ一個所破碎

金ノ貫通セムモノ

一径八吋モ一個四吋モ三個斜貫

一径六吋モ三個所射貫

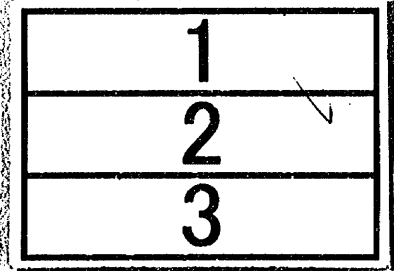
一径六吋モ三個所射貫

一 大孔 無數 燒切
 一 徑一吋 毛 一個 貫通
 一 徑四吋 毛 斜貫
 一 徑五吋 毛 貫通
 一 徑四吋 毛 斜貫
 一 徑四吋 三吋 毛 二個 貫通
 一 徑一吋半 毛 一個 貫通
 一 徑四吋 毛 一個 貫通
 一 徑四吋半 二吋 毛 二個 所貫通
 一 大孔 無數 貫通
 一 大孔 無數 貫通

結論

- 一 釣床肩牆、彈片防護、尤も有益ナリ
- 一 釣床、毛布蒲團一切、包入レタルモノ尤も有益ナリ
- 一 右、如キ釣床、二重に並列スルトキハ、概テ敵彈ノ破片ヲ防護スルニ充分ナリ
- 一 檣楼下面、如キ傾斜面ヲ釣床ニテ包被スルハ、彈片ノ反撃(若クハ斜飛)ヲ防止スルニ最も有益ナリ
- 一 司令塔も亦、釣床ヲ以テ包圍スルヲ有益トス
- 一 本艦ニテ使用セシ釣床内、残留セシ彈片、十數個保存シアリ

分割撮影ターゲット

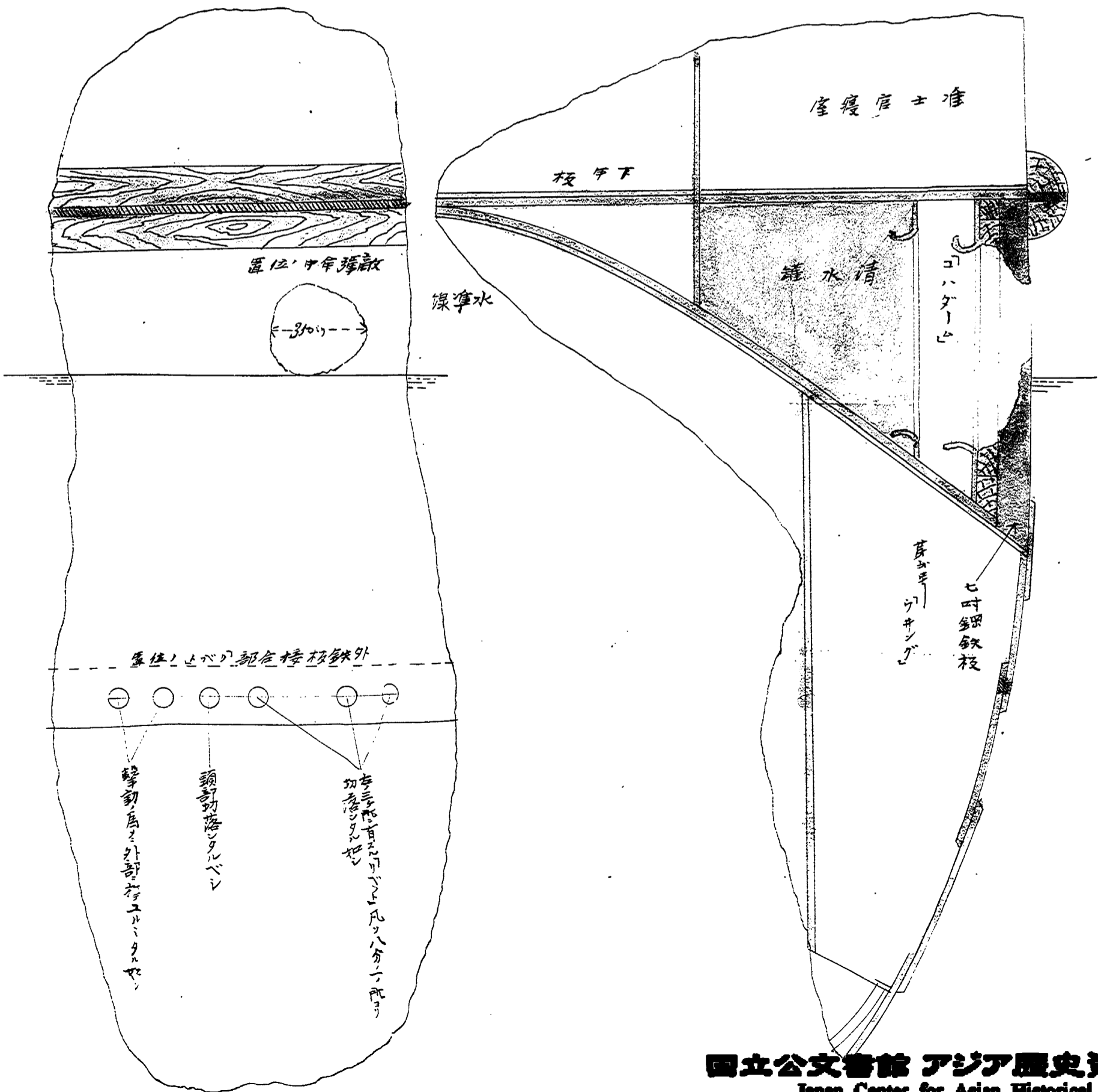
分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 版 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

1089

1090

1091

● 黒鉄
○ 黄木
● 青水
● 赤檀



ターメス一分石番四拾吋六

六吋鋼鉄板

庫炭石

(載満際腐蝕シ但)

線準水

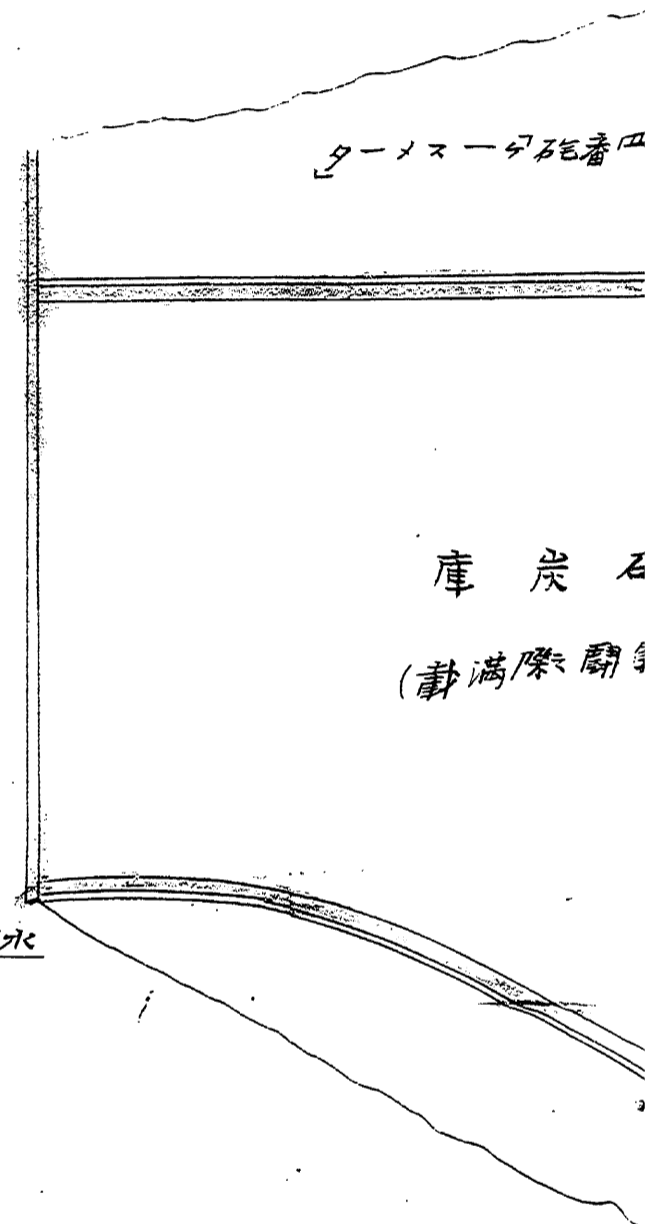
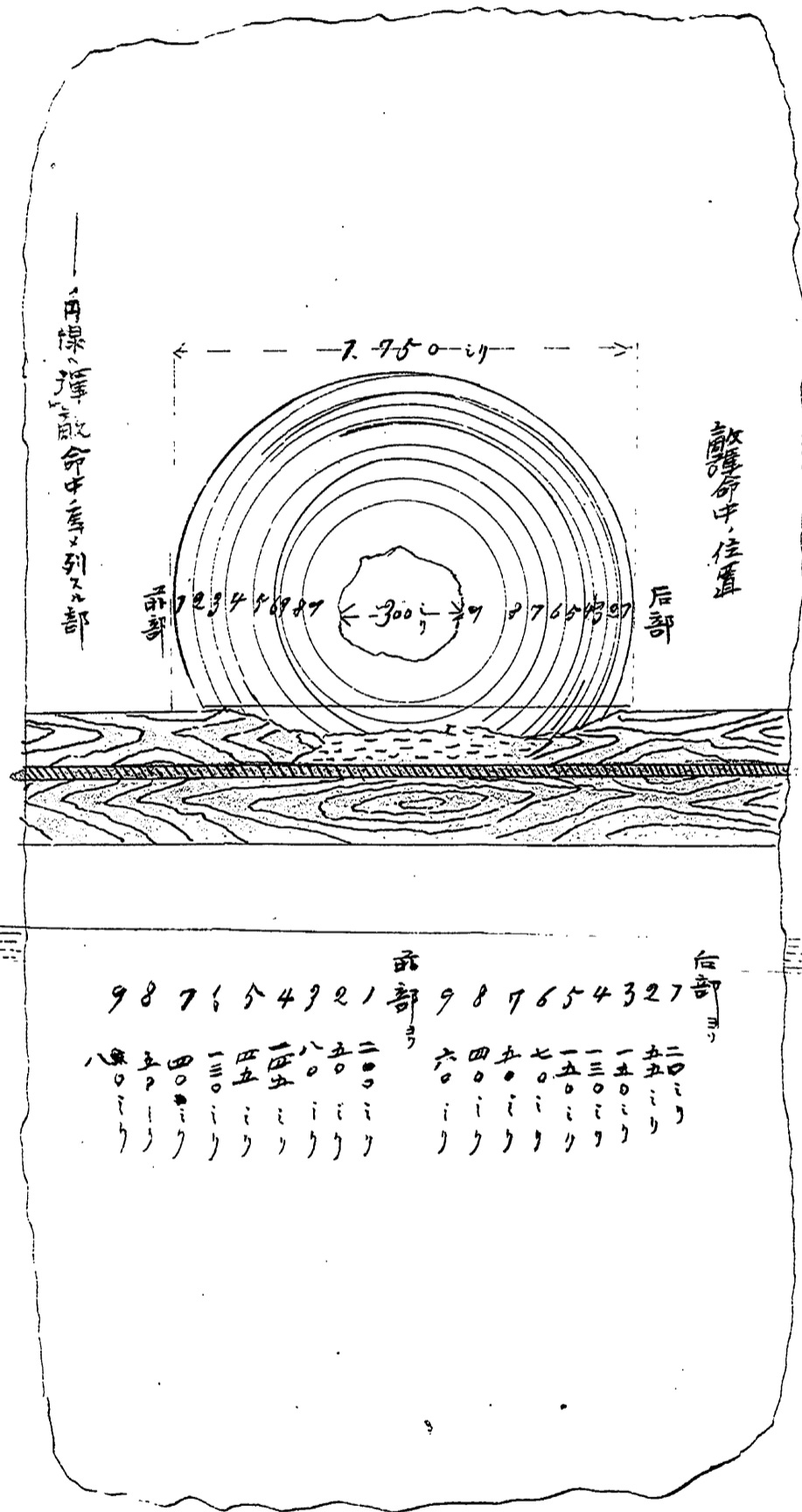
九吋鋼鉄板

命

狀形、鉄鋼吋七中命彈敵

直径!

撃動、盾ノ外部ヲ穿ルニクニヤ



八月十一日 晴

南々西々南西風力一

北緯廿七度廿五分

東經百三十五度五分

午前二時三十分

後部十二号砲彈ヲ前部ニ移シテ之レニ後部十二号砲一個

破壊シタルヲ以テ其彈丸ヲ前部十二号砲ニ發射スルカ爲ナリ

五時

北々西々西定針速力十二海里トナス之レ敵艦隊ノ南下スルモ

アラハ必ス之レヲ迎撃セシカ爲ナリ

五時四十分

捕獲ノ將校見張ラ出シ同時同距離トス

五時五十分

右旋ノ陣陣制ル

六時

北東ニ汽船ヲ認ム日進ラシテ之ヲ搜索セシム

六時五十分

東々北々三戦隊ヲ見ル

七時

北々東々方リ浅間ヲ認ム

七時五十分

以頭ヲ敵ノ一駆逐艇我艦隊ノ前方約二万米突斗ヲ横

切リ西南西ニ進行スルヲ以テ頭ヨリ之ヲ追撃手セシム

海軍

七時五分 日進列へ入ル

八時五分 浅間より本艦右舷前方十哩位置に警戒航行せしム

八時四十分 臨時軍事兵換りす所を戦闘せりし主とすル死傷者ヲ精確ニ兵換ス

九時九分 右舷真一有回頭すル針路北東に東

九時三十分 右舷正横前約一兵、黒煙ヲ見ル

十時十分 右舷高砂より確々

十時五分 現隊形ヲ暫ク漂流ス

十時三十分 再び前進ヲ起ス原速十二海里トス

十時十分 右舷縦陣ヲ制ル針路北西に西に定ム

十時十分 後部十二号砲(残り一方)実弾發射試験ヲテテ結果良好

午後一時 北西に北に更針

一時三十分 當道より大播、破損ヲ可成修理ヲサシム

二時三十分 右舷艦首に黒煙ヲ認ム後、松島ナルヲ知ル

三時五分 松島、接近ス為ッ北西イ西、変針

四時十分 艦破片ト認ムキ木材、椅子等、教ヲ漂流スヲ見ル

五時 右舷、異形水雷、漂流スヲ認メ、教島ヲシテ之ヲ拾ヒ、今時
イ速トス

六時五分 教島信アリシテ、四ノ異形水雷三個ヲ拾ヒ、

六時五分 右舷艦首、夕日ノ帰航スヲ認メ、同艦ハ先キ、奥線電信ヲ

以テ報テ、敵ヲ駆逐シ、速カキテ、平撃ヲ沈メ、能ハト

六時五分 半速次テ、原速、教島列ニ入ル

六時五分 円島ノ南、東約十二哩ノ處、於テ北イ東、変針

六時五分 今夜、光禄島ノ南方ニ、泊豫定ト信アリ

十時五分 半速トス
十時五分 停止、同十分、右舷、錨ヲ投ス、艦位ハ心ノ如シ

グリーンピア島 北西イ北

海 軍

八月十日

晴

南風力〇一

長山島泊地

午前四時五分

錨揚方

五時十分

錨揚り前進し起り長山島泊地に向く早速十哩

五時五分

北東に北に定針

六時五分

泊地附近に達せし此頃濃霧来り因り便宜に碇に

碇泊し令下し

七時七分

古船錨ヲ投ス

位置

蛤蛇砲

南東より東

吟仙島東端南より西に西

水深十三尋錨鎖四節底泥

十時五分

鞆阿員傷者ヲ悉ク神戸丸ニ送リテ

午後一時五分

鞆死者遺體ヲ長山島に於テ白骨ト為テ整理

俾テ今時ニ艦長ヲ吊詞ヲ述バレル

毎

日

藤瀬中尉以下戦死者諸勇士告る予、黃海ノ戦於テ
諸君ト共ニ勇戦健闘シテ尤モ遺憾ナカラ諸君今ヤ無シ
予ハ諸君血ヲシキリシニ染ノ永久保存シテ三笠ノ
紀念トナベシ吾人ト同哲言テ敵艦隊ヲ全滅シ諸君
此ヲ報ゼントス諸君夫レ瞑セヨ

此日予所ニ工所松ヨリ職工ヲ教未艦一昨日戰鬥ノ損壞箇所
ノ應急修理ニ着手セリ此夜徹夜ニテ去
二時十分山城丸ヲ彈藥補充ヲス

八月十三日

晴 南東及南東風力一

長山島泊地

五時五分

彈藥補給了ル

四時半

敵艦隊脱出信号ヲ其但疑ニ其見了ル色々

取調の結果誤認ナルヲ発見并日出后信号ヲ以テ

之ヲ取り消ス

五時十五分

再ビ彈藥積入方カル

六時半

第五戦隊及日進春日八重山出港封鎖取備就

七時十分

石炭船産山丸ヲ右舷横附ス

七時半

彈藥積入手傳トシテ富士ヲ兵員八十名来ル

八時半

石炭搭載了ル

午後四時半

石炭搭載了ル

八時半

防禦網右舷ニ張ル艦ハ戦闘ノ為故障起リ

張ル不能ス

右、告示ヲ得タリ

聯合艦隊告示第一〇九号
兩隊告示第一〇九号、追加

八月十四日

曇

南風力一二

長山島泊地

午前九時五分

艦載水雷艇四隻(敷島二朝日一富里一列ビシ) 赴

午後四時十分

艦員ヲ甲板ニ集合 勅語捧讀次ニ艦長 訓示ヲ去

六時

艦員ヲ以テ薩瀬中尉以下斃死者靈骨ヲ運ル 台中ニ托ス

九時 戰鬥概報ヲ得ル

四時 概報ヲ得ル(八月十四日)

海

軍

八月十四日 艦長訓示
 一、艦員ヲ熱心執務ニ彈藥及炭水ノ補充神速トシ
 大ニ満足スル所ヲ猶敵ノ再出ヲ期シ益々勉勵セヨ
 二、新ニ乗艦セシ者、本艦ノ方針ヲ能ク心得配置其他
 艦員ノ令隊長又ニ部長ニ訊クモ遺憾ナキヲ期セヨ
 三、本日休息ノ時ニ充分ニ休息ヲ十七日

海

八月十日 晴 南及南々西ノ風力ニ 長山島泊地

午前八時 第三カッターヲ捨ツ之レ十日海峽ノ為テ全破壊

再ヒ修理ニ過セサルニ至ル

九時零分 旗信ニ至急汽鐘ニ火大ス之レ敵艦脱出

疑アルニヨシ

十時零分 旗信ニヨリ埋火ス

午後二時零分 藤本司令ノ引致ニ至ル敵駆逐艦ノ捕虜一名ヲ

齎ラズテ擲クニテ之レヲ台中ニ送ル

九ノ旗信アリタリ

第一戦隊ハ十海里ノ速カヲ出ス大テ汽鐘ヲ埋火セ

今夜汽艇ヲ出サズ各艦嚴重ニ警戒セ

今夜若シ出港スル時ハ第二小隊ヲ先ニ出港セ

之レ第二小隊ハ港口ニ近ク碇泊セリヨル

海 軍

八月十日 晴暑及時降雨

南西北力二四

北緯三十八度五分

東經百三度四分

午前十分直に出港用意十七ノ糖信アリ因テ防禁網ノ

職工江都丸(還)次々直ニ鎖鎖ヲ始メ

三時五分 第一小隊出港

三時五分 前進ヲ起ス

三時五分 探海燈ヲ莫港口浮標ヲ注視ス

四時五分 港口浮標ヲ右舷正横ニ見テ通過ス

四時五分 南西北ニ定針

四時五分 原連十二哩

五時五分 長子島東南端ヲ東ニ地在北八哩ニ見テ

西南西ニ定針

録

匣

新時天分速カ八哩去同時秋津洲會同艦山東角

偵傍到露驅逐艦坐礁上自爆沈セリ
タニ多同駆逐艦坐礁上自爆沈セリ

報セ

八時半分田島ヲ北航正横六哩見ル

八時半分針路南西ニ変ス

十時半分針路南ニ変ス

十時半分速カ十海里ニ去

十時半分半速カト去

十時半分北ニ変針

四時傳止ス此日今朝未明ヲ敵艦脱出疑ハ

以至急出港セリ知次ヲ敵情報ヲ得ル及テ

脱出ハ誤報ナリシト知ル因テ漂出ス

